

学力調査結果

教育指導課指導係

☎ 0 8 2 4 ・ 7 3 ・ 1 1 8 4

全国学力・学習状況調査の結果

文部科学省が行う、全国学力・学習状況調査が4月19日に実施され、小学6年生と中学3年生が参加しました。

(表1)

[小学6年生]

[中学3年生]

教科	庄原市	広島県	全国	教科	庄原市	広島県	全国
国語A	78.3	78.4	72.9	国語A	75.6	76.6	75.6
国語B	59.4	60.5	57.8	国語B	67.9	67.9	66.5
算数A	81.8	79.7	77.6	数学A	57.2	62.1	62.2
算数B	48.4	49.5	47.2	数学B	41.9	44.8	44.1

※Aは基礎的・基本的な内容、Bは知識・技能を活用する内容
※数値は平均正答率(%)

広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果

県教育委員会が行う「基礎・基本」定着状況調査が6月7日に実施され、小学5年生と中学2年生が参加しました。

(表2)

[小学5年生]

[中学2年生]

教科	庄原市		広島県		教科	庄原市		広島県	
	教科全体	タイプI	タイプII	平均		教科全体	タイプI	タイプII	平均
国語	教科全体	65.3	63.7	63.7	国語	教科全体	72.4	69.7	69.7
	タイプI	68.9	68.0	68.0		タイプI	74.9	71.8	71.8
	タイプII	42.9	36.7	36.7		タイプII	61.6	60.6	60.6
算数	教科全体	71.4	69.4	69.4	数学	教科全体	67.9	66.8	66.8
	タイプI	77.6	74.9	74.9		タイプI	71.1	69.6	69.6
	タイプII	51.9	52.0	52.0		タイプII	56.9	57.3	57.3
理科	教科全体	65.4	60.6	60.6	理科	教科全体	55.9	51.8	51.8
	タイプI	74.1	68.1	68.1		タイプI	58.7	54.4	54.4
	タイプII	49.3	46.7	46.7		タイプII	52.1	48.3	48.3
英語	教科全体	79.5	69.6	69.6	英語	教科全体	79.5	69.6	69.6
	タイプI	83.1	72.6	72.6		タイプI	83.1	72.6	72.6
	タイプII	59.4	53.0	53.0		タイプII	59.4	53.0	53.0

※タイプIは基礎的・基本的な内容、タイプIIは知識・技能を活用する内容
※数値は平均通過率(%)

(表3)

広島県「基礎・基本」定着状況調査の質問紙調査における調査結果(抜粋)

※数値は「よくあてはまる」「ややあてはまる」と肯定的に回答している割合(%)

設 問	小学5年生		中学2年生	
	庄原市	広島県	庄原市	広島県
自分で勉強の計画を立てている	70.6	61.5	64.8	50.6
学校の授業の予習をするようにしている	68.1	53.2	42.9	38.6
学校の授業の復習をするようにしている	83.2	64.7	71.6	57.4
家庭で1日に1時間以上勉強している	平日	56.2	53.7	72.0
	休日	45.6	38.7	68.2
1日に3時間以上テレビを見たり、ゲームをしたりしている	平日	21.9	26.5	25.2
	休日	43.0	41.3	55.5
1カ月に6冊以上読書をしている	50.9	38.1	17.3	12.7
家庭で1週間に3時間以上読書をしている	13.3	11.8	10.0	7.5
地域や子供会の行事に参加している	84.2	67.5	74.3	49.4
自分が住んでいる地域のことが好き	93.9	90.2	85.4	81.9

さらに、地域や子供会などの行事に参加している児童生徒の割合も県平均を大きく上回っており、庄原市の子どもたちは、地域の多くの人との出会いの中で、さまざまな経験を重ねて育っていることが分かります。

市教育委員会では、今後も、学校・家庭・地域が連携した意図的な取り組みをさらに進めていきます。

本年度実施した、全国学力・学習状況調査および広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果は次のとおりでした。

2つの学力調査の結果を受けて、庄原市の児童生徒の学力や学習の状況をお伝えします。

表1から、全国学力・学習状況調査では数学以外は市の平均正答率が全国平均を上回っていますが、知識・技能を活用する内容のB問題の平均正答率がA問題に比べて低く、特に、算数B・数学Bはともに50%を下回り、例年の大きな課題となっています。

表2から、「基礎・基本」定着状況調査では、教科全体の

平均通過率は、おおむね県平均程度か県平均を上回っています。また、基礎的・基本的な学習内容(タイプI)は、概ね定着していると考えられますが、全国学力・学習状況調査と同様に、知識・技能を活用する内容のタイプIIの通過率が、タイプIに比べて低くなっております。

表3から、自分で勉強の計画を立てたり、家庭で1日1時間以上勉強したりしている児童生徒の割合は、すべて県平均を上回っています。特に、学校の授業の復習をしている児童生徒の割合は、県平均を大きく上回っており、家庭学習習慣が定着してきています。

これまでの課題であったテレビやゲームの視聴時間は、1日3時間以上の割合が少なくなっています。小学5年生の休日についても、県平均比で昨年度より11・6ポイント改善しています。また、家庭で1週間に3時間以上読書をしている児童生徒の割合は増加傾向にあるなど、望ましい生活習慣が身に付いてきています。